

みなさんは、自分たちが住んでいる町に どんな民話があるか知っていますか。

大豊町や旧仁淀村など県内各地に伝わるヤマチチの話、室戸市佐喜浜に伝わる「かじやのかか」の話、高知市長浜の宇賀の長者さま、中村のひょうげの泰作さんなど、太平洋に大きく開けた土佐湾と自然ゆたかな山々に囲まれ、南国の暖かい気候にはぐくまれた高知には、特色あるたくさんの民話が伝わっています。

市原麟一郎先生は高知の東から西へ、北から南へ、県内中を歩き回り、たくさんの民話を集め残してきました。さらに、70年も前に聞いた昔話を語ってくれたお年寄りの「4、5歳の頃に聞いた話は、一生胸に残っている」という言葉を大切に、民話の伝承に力を尽くしました。

この展覧会では、市原先生が集めたたくさんの民話を次世代のみなさんに楽しく伝えていきたいと思っています。

市原先生のお仕事を振り返るとともに、土佐民話の豊かさ、面白さに触れ、家族や学校、地域で民話を語り伝えていっていただければと願っています。

◆展示構成◆

1. 市原麟一郎先生の人生 101年
2. 市原麟一郎先生の仕事 掘り起こす・残す・伝える
3. 民話のふるさと
4. 土佐民話よ、永遠に

6mの巨大段ボールジオラマで
高知県に伝わる民話がひとめでわかる！
協力：高知県立高知農業高等学校

民話カードでおはなしを
読んでみよう！

市原麟一郎先生 (1921—2023)

土佐民話の第一人者。

昭和18年、須崎工業学校(現・須崎総合高等学校)の臨時教員時代に、軍国主義を称える本ばかりの書店で見つけた『肥後の国 昔話集』が民話との出会い。戦後、教員として勤めながら、民話採集にはげみ、『民話のふる里』(昭和46)で高知県出版文化賞受賞。民話の記録と伝承のために立ち上げた「土佐民話の会」の機関誌「土佐の民話」は42年間、500号まで続いた。自作民話紙芝居を持って県内の幼稚園・保育園等への紙芝居公演に出向き、子どもたちへの伝承に努めた。



取材中の市原先生
撮影：渡辺裕二氏

●民話散歩

令和6年
日時：11月30日(土)
定員：30名(最少催行人数20名)
参加費：3500円(昼食込)
集合：午前9時
解散：午後4時30分(予定)

お申込みは
高知新聞観光 088-825-4334

●工作イベント

土佐民話をモチーフにした
でんでんだいを作ろう！

令和6年
日時：10月27日(日)、12月1日(日)
各日午後2時～4時
参加費：要当日観覧券
定員：各日30名
申込方法：電話または文学館
受付にて事前申込

場所：文学館1階ホール

●おはなしキャラバン 毎月第1土曜午後2時～ ※無料

●展示解説 毎週土曜日午後1時30分～(11/30のみ展示解説は
※要当日観覧券 ありません)

●記念講演会

「土佐の民話を訪ねて」

令和6年
日時：10月20日(日)午後2時～3時30分
講師：常光徹氏(国立歴史民俗博物館名誉教授)
定員：100名 場所：文学館1階ホール
参加費：要当日観覧券
申込方法：電話または文学館受付にて
事前申込

●クイズイベント

令和6年
日時：10月5日(土)、6日(日) 12月14日(土)、15日(日)
令和7年1月4日(土)、5日(日)
各日午前10時～午後4時

参加費：要当日観覧券
場所：2階企画展示室

団体観覧歓迎！

幼稚園・保育園、学校・クラス単位
での社会見学・総合的探究の時間で、
ふるさと高知のことを学習しませんか。
お気軽にお問合わせください。(要予約)



市原麟一郎・文 藤本知子・絵
『へんしも読みたい 土佐民話落語III』(高知新聞社)より